

越田会長記者会見要旨

日 時：平成16年5月19日（水）午後2時30分～午後2時50分

場 所：フロンティア21記者会見場

出席者：越田会長、高橋副会長

高橋副会長から、理事会の審議事項の概要について報告が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

ジャスダックの倉員社長が個人的な取引で辞任を表明した。日証協としては調査委員会を開き、その結果も出ている。かなり厳しい内容と思うが、それを受けて、日証協としては、処分等を行わないのか。

（越田会長）

本人が6月末をもってお辞めになるし、取締役会においても、そのことが了承されている。もう既に本人がお辞めになることで全てだと考える。

（記者）

その際、こういった形であるので、退職金等の扱いについては、大株主の立場からいかがお考えか。

（越田会長）

退職金等については、ジャスダックが決めるべき問題である。今のところ、特に経営の業績においては非常に貢献度が大きかったという面を勘案すると、退職金を減額するという考えは今のところ持っていない。

（記者）

お辞めになるということで、後任の人事であるが、大株主としての立場で、後任についていかがお考えか。

（越田会長）

ジャスダックの指名・報酬委員会において決める方向で、もう既に動いていると聞いている。今週月曜日に第1回目の会合が開かれ、その際に、信頼性、公正性、そして経営力、取引所化の推進力、こういうことを重点において推薦するという話を聞いている。

（記者）

まだ現状では、特段の方をお願いする段階ではないということか。

（越田会長）

まだ個別の名前が出ている段階ではないと聞いている。

（記者）

東証取引参加者協会が解散を決議した。いよいよ7月1日に合流ということで具体的に動き出したと思う。スケジュールについて伺いたい。

（越田会長）

前回も申し上げたが、業界全体、特に理事会でも、業界活動の一本化という要請があり、それを受けて話し合いをしていた。昨日、参加者協会で理事会が開かれ、6月末をもって解散し、業界活動を日証協に一本化しようということで一致したと聞いている。全体として、業界活動が一層これにより効果的、効率的に推進できるものと思われ、参加者協会の決定には敬意を表したいと思う。今後については、参加者協会が行っている事業の取扱いや参加者協会の職員の問題について、現在、両協会の事務局で協議を開始したところである。できるだけ円滑に業界活動機能の一本化を実現するために、日証協としても

真剣に前向きに臨みたいと思う。いずれにしても6月末に解散するということなので、具体的な話もそれまでにできるかぎり解決したいと思う。

(記者)

7月1日の日証協の改編に合わせるということによいのか。

(越田会長)

6月30日に解散するということなので、スケジュール的には7月1日と考える。6月30日の解散は7月1日を意識して決められたのだと思う。

(記者)

CRO(最高規制責任者)の話である。ジャスダックでも同様の職種を置く考えはあるのか。

(越田会長)

東証のCRO選任の件は、金融審議会金融分科会第1部会の報告を受けて、「自主規制業務の遂行体制としては、他の業務から独立して行われるよう担保すべきである」との答申がなされたことを受けての対応の一つだと理解している。ジャスダックにおいても、市場の公正性、透明性を高めるため、何らかの適切な対応がとられることが望ましいと考える。前向きに検討して欲しいと思う。

(記者)

いずれ作るということか。

(越田会長)

最終的にはジャスダックで決めるべき問題であると思う。前向きに検討して欲しいと思う。

（記者）

参加者協会の件である。事務局の職員は出向者を除くと約 20 名ほどいる。これらの職員は希望すれば、日証協に転籍できるということか。

（越田会長）

いずれにしても、日証協としても本当に必要な方は何人か、どんな部署で必要か、そしてそれに適している人はどういう人かということが大前提になると思う。それ以外に、この業界の関係団体にも働きかけ、本来的には参加者協会が働きかけると思うが、日証協としても御助力と言うか、一緒になって就職先を探すことになると思う。自ら退職される方は別にしても、働きたいという方はできる限り、我々は希望に応じるよう努力したいと思う。

（記者）

希望に添えるよう努力するということであるが、協会自体としては受け入れる余地はないということか。

（越田会長）

協会自体としても受け入れる方向で、1 人でも多く受け入れられれば良いことだと思う。

（記者）

参加者協会が解散すると、盆暮れ 2 回の政治献金は、どういう形で各社の意見を反映できるようにしていくのか。そのあたりの見取り図、プランを伺いたい。

（越田会長）

国民政治協会への拠出金はこれからである。基本的には、話し合ったことは、各社ベースでやるということである。ただ、各社別にやることに対して、金額その他、業界として、各社ごとにある程度の金額を振り分けてもらえればあり

がたいという説もある。かたやそういう必要もない、各社に一任すべきであるという考えもある。そこは煮詰まっていない。

（記者）

両方並立することもあり得るのか。

（越田会長）

基本的には各社ごとに振り分けると言うのは難しい面もあるので、日証協としては、各自でされるのが一番望ましいと考えるが、その辺の話はこれからである。

以 上